

PCT news letter vol.11

Palliative Care Team:緩和ケア委員会からのお知らせ

残暑お見舞い申し上げます

総合上飯田第一病院緩和ケアチーム（PCT）の活動をご紹介します。今回は、去る7月13日に開催した第3回青空コンサートと、8月7日の第7回公開カンファレンスの話題です。

昨年より、患者さんとご家族のみなさんに楽しんでいただくため、PCTと職員有志による院内コンサートを企画してみました。まったく楽譜

の読めない初心者から合唱経験者まで幅広く募集したコーラス団「青空エコーズ」と、楽器経験者によるジャズバンド「上飯田スイングガールズ&ボーイズ」、どちらも週1回勤務終了後に集まっての練習で、時間的にも技術的にもなかなかきびしいものがありました。毎回アンケートでよろこびやお褒めの声をいただき、第3回をむかえることになりました。今回は「青空コンサート実行委員会」が立ち上がり、PCTメンバーの所属していない放射線科や庶務課など

にも積極的に声をかけて、協力者は60名超！裏方仕事も全員で分担し、企画のスタイルも成長しました。「スイング」はルパンやジブリなどの定番曲のジャズアレンジを、「エコーズ」は“見上げてごらん夜の星を”などの名曲を、また“情熱大陸”の演奏と手拍子に合わせてかき氷ショー、そして参加者全員で“おおシャンゼリゼ”を熱演熱唱。夏の暑さにも負けないパワフルな時間をお届けしました。ポスターは、今年のクリスマスコンサートを大変喜んでいただいた患者さんが次回用にと描かれた背景画に、わがチームの誇るデザイン担当・佐藤氏が文字を入れて完成させています。アンケートでも過去2回を上回る好評を得ました。ただ・

ひとつの目標を達成するためには、企画チームの中で率直に意見を

交換できること、人の立場を思いやって声をかけ自発的に協力しあうこと、各自が（自分ひとりいなくても何とかできる）ではなく、かけがえのない一員だと自覚できていることが大切なのでしょう。ここが未熟なまま参加者が膨れ上がったために、連絡メールでよびかけても、出欠の返事もそろわず練習の集まりが悪いなど、生まれたばかりの委員会も講師の先生方も大変な思いをすることに。それでも表に出ない部分で色々な方がそれぞれの持ち場でベストを尽くしてくださって、「ひとりきりでがんばってるわけじゃないから」と、人と人とのつながりを感じることでなんとか乗り越えた状況です。すべて、コンサートに限らず、緩和の仕事、いや普段の仕事、人生全般にもいえる、いろんな意味で貴重な学びではないでしょうか？

みんな忙しい、みんな毎日大変だ。でもだまっていたら、誰にも伝わらない、何も変わらない。「大変なこと、つらいことがあったらひとりで抱え込まずに声をあげて。そして誰かが一生懸命声をかけてきたときは、スルーしないであなたの気持ちをおしえてほしい。」私から、いま闘病中の方にも、当院職員すべての方にも伝えたいメッセージです。





看護師の安藤佐和子です。現在は内視鏡・注射処置室に配属されていますが、以前外科病棟で緩和委員をしていた縁で実行委員に召集され、青空コンサートの実行委員長を務めることになりました。実行委員会は第3回のコンサートから活動を開始し、現在は5名のメンバーで構成され、企画・運営、会場や講師の手配、参加者への連絡調整、ポスター・パンフレット作製などを分担して行っています。私自身も、第1回のコンサートからスイング・エコーズの両方に参加させていただいています。青空コンサートも7月に無事3回

目が終わり、現在4回目へと徐々に活動を始めているところです。

回数を重ねるごとにコンサートへの参加者も増え、とても嬉しく思っています。でも、人数が増えたことでまとまりがつきにくくなり、一部の人にだけ負担がかかっている、一人で悩みを抱えて苦しんでいる、それに気付いてあげられず悲しい思いをさせてしまった、そんなことがいくつも起こりました。1

人で抱え込まなくてもいいように、みんな協力し合っているものを作りたい。
みんながやってよかったと思えるようにしたい。そして見に来てくれる人たちにもっと喜んでもらえるものを作りたい。そんな思いを込めて出来上がったのがこの実行委員会です。

コンサート自体は練習もあり、確かに楽ではありません。それでもやりたいと思えるのは見に来てくださる方の笑顔や言葉に本当にたくさんの元気をもらえるからです。そして、参加することで人と人のつながりができ、輪が広がっていきます。たくさんの仲間

ができ、とても素敵な経験をさせてもらっています。私自身もたくさんの人に支えられてきて、仲間の大切さ、ありがたさを実感してきました。みんなで一緒に考えながら、一緒に作り上げていく。どこかPCTの活動と似ているのかもしれませんが。そんな青空コンサートをこれからも温かく見守っていただければと思います。



声をかけて下さいね



今後のこと・・・

公開カンファレンスでは、最近のPCTに関連する院外発表をダイジェストにまとめて院内のみなさんにフィードバックしました。臨床心理士の清水智子さんは、日本緩和医療学会総会でのタッピング・タッチに関する報告、また私からは同学会のほかに東海緩和医療研究会・日本乳癌学会総会・医療ソーシャルワーカー基幹研修講義での報告内容からおはなししました。当院の素晴らしいところは、院内すべての部署が緩和ケアに関心をもち、自発的にこのような企画に足を運んでくださるところです。各部署の新人さんも多く参加していただき、今後ますます当院での緩和ケアの水準が向上することを期待できそうです。9月と10月の公開カンファレンスは、アンケートで要望が多かった緩和科医師・緩和認定看護師さんをお招きしての講演会が実現しました。「急性期病院で緩和ケアはどこまでできるか？」という問いに、これまでの当院での経験を踏まえ、前向きな議論が深まっていくのがたのしみです。